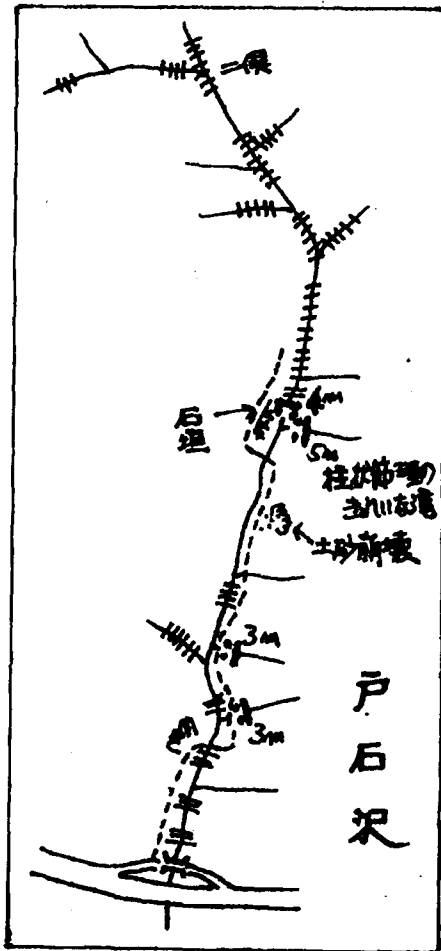


戸石沢

1985年8月1日



戸石は「砥石」に通ずる。転じて川底の平らな沢という意味で名がついていることがある。したがって、こうした名前をもつ沢の中にはきれいなナメの続くことがあり、この戸石沢も例外ではなかった。しかし、まことに残念であったのは、林業用道路が沢底を平らにならすようにしてつけられていたことであつた。おかげで、きれいなナメはその多くの部分で砂利の下に埋もれてしまつていた。

5:30遊行開始。沢ぞいに林業用道路が入っているのを見た時は、イヤな予感があつたのであるが、まもなくその道路が沢底の砂利を平らにならして車が通れるようにしてあるものになつた時には、本当にガツカリした。おかげで、所々のナメは埋もれており、水流で深くえぐれた岩の凹みには不細工にもコンクリートが積みこまれている。どうやらこの沢の周辺の造林作業時につけられた道のような

るが、下部は今でも使われているようである。

40分程遊行したら、この沢唯一の滝が出てきた。4m。花崗岩質の滝で、柱状節理が発達して、いいホールドとなる。左岸の支流にかかる滝の方は、この節理がとてもきれいであつた。林業用道路は、この滝の右岸に石積みをして更に奥へと延びているが、ここらあたりから先はもう廃道となつていた。

沢が左に大きく曲がり込んだあたりから先は、細い流れとなつてきたもののナメがよく発達して源頭まで続いている。それだけに下流部の林道によるナメの破壊が惜しまれる。

1時間程で二俣。栃木沢の下降を予定していたので、左俣に入る。まもなくヤブがかぶつてきたので、遊行終了として、尾根を越えて栃木沢の下降に移る。

(記)

[タイム] 戸石沢出合(5:30)→遊行終了